

# イノベーション・マネジメントシステム

OKIは、2017年に国際規格ISO 56002を先取りしたイノベーション・マネジメントシステム (IMS) 「Yume Pro」を導入し、イノベーション創出活動に取り組んでいます。これは組織の状況を踏まえて、リーダーシップ、ビジョン、計画、支援体制、イノベーション創出活動、評価・改善に有機的に取り組み、イノベーションの成熟度を高めていく仕組みです。この仕組みを活用した「全員参加型のイノベーション」により、「中期経営計画2022」に掲げた7つの社会課題の解決に貢献します。

## ● 全員参加型のイノベーションを目指す

OKIは2020年12月、IMS「Yume Pro」を全社のマネジメントシステムへ取り込む「全員参加型のイノベーション」を推進し、2022年度にはイノベーション創出の仕組みをグループ全体に適用した「IMS Ready」な会社となることを宣言しました。2021年4月にはそのプロセス・手順を規程化するための全社プロジェクトを設置し、ISO 56002の「機会の特定」「コンセプトの創造」「コンセプトの検証」「ソリューションの開発」「ソリューションの導入」に相当するプロセスの試行と規程へのフィードバックを進めています。また、2020年度までグループ累計で3,124名が受講したイノベーション教育を継続・強化し、2022年度末までに国内グループ社員の半数となる6,000名の受講を達成する計画です。IMSのプロセスに沿った新規ビジネスを継続して創出するための仕組みとして、事業への具現化を目的としたビジネスアイデアコンテスト「Yume Proチャレンジ」を2018年から毎年実施しており、2020年度はグループ全体から147件のエントリーがありました。

## ● 2030年までのイノベーション戦略を発表

OKIは、2021年1月、2030年までの中長期における事業創出を目指した「イノベーション戦略」を発表しました。これはISO 56002にある「機会に関する意図」として、事業分野ごとに目指す姿としてのロードマップを示したものです。「中期経営計画2022」に示した7つの社会課題の解決に向けた具体的なアクションを9つの注力分野にブレークダウンし、「Yume Pro」のプロセスに則ったイノベーション・ロードマップとして定義しています。本戦略に掲げた各施策をお客様の現場に寄り添いながら全員が着実に推進することで、中期経営計画の「目指す姿」を達成し、お客様のイノベーションパートナーとして、「社会の大丈夫をつくっていく。」を実現していきます。

OKIのイノベーション・マネジメントシステム「Yume Pro」  
[https://www.oki.com/jp/yume\\_pro/](https://www.oki.com/jp/yume_pro/)  
 イノベーション戦略  
[https://www.oki.com/jp/yume\\_pro/strategy/20210127-01.pdf](https://www.oki.com/jp/yume_pro/strategy/20210127-01.pdf)

注力分野	2022	2025	2030	目指す姿	解決する社会課題 (SDGs)
金融・流通	リソースの最適化	店舗のデジタル改革	新端末&サービス改革	安全で便利な決済/サービス	8, 9, 10 8.2 8.6 9.3 10.2
物流	事務作業効率化による増益	効率的なサプライチェーン構築	AI間連携サービス	サプライチェーン構築の完全自動化	8, 9, 11 8.2 9.1 11.2 11.3
高度遠隔運用	コア技術を融合させた協働ロボット創出	協働ロボットによるサービス提供	AI間協調によるロボット・クラウド高度連携	人と協調・多様な業務をこなすロボットソリューション	5, 8, 9, 11, 16 5.b 8.2 8.5 9.1 9.4 11.1 11.3 16.1 16.2
防災	防災情報システム	地域コミュニケーション支援	防災テレマティクスサービス	災害に強い持続可能な都市の実現	11, 13 11.5 11.b 13.1 13.3
ヘルスケア	行動のデジタル化	行動データの活用	行動変容の実現	日常的に利用する行動変容サービス	3, 8, 10, 17 3.4 3.5 8.1 10.2 17.17
製造	現場改革	IT・オペレーション改革	マネジメント改革	スマート工場	7, 8, 9, 11 7.1 8.2 9.4 11.6
海洋	コア商品による新分野展開	海洋データ収集に向けソリューション拡充	海洋データインフラ整備新ソリューションの実現	海洋データインフラ活用サービス	9, 11, 13, 14 9.b 11.a 11.2 13.1 14.1 14.2
建設/インフラ	事務作業効率化による増益	効率的なサプライチェーン構築	AI間連携サービス	建設・維持管理の現場支援サービス	8, 9, 10, 11, 12 8.2 8.5 9.1 10.2 11.2 11.5 11.b 13.1
交通	ETC2.0利活用	V2Xネットワーク実現	自動走行・テレマティクスサービス	インフラ協調ITSサービス	8, 16, 17 8.4 11.2 16.10 17.8

注力分野におけるイノベーション・ロードマップ一覧